

## 下権現堂山山行記録



目的地	下権現堂山	期 日	平成 18 年 3 月 5 日 (日)
山人	笠原正雄単独	特 記	他に入山者無し。雪庇で撤退する。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 6:30 発	晴	堀之内まで高速利用。駐車場は無く、NPO 法人「みんなのおうち」の前の歩道に乗り上げて駐車。
ゲレンデを 歩きだす	8:05	快晴	子供が 2 人ソリ遊びをしていた。冷えて雪が固く、どこを歩いても沈まない。カンジキのふみ跡や、スキーシュプールがガリガリに着いている。
2 本目リフト上	9:00	〃	リフトに沿って直登の踏み跡に乗る。昨日のものであろうが、固くしまっている。雪が剥けている斜面が僅かあったが、その方が登りにくい。ここに上がると向こう側の展望が開ける。
	9:25	〃	最終リフトに沿う踏み跡が更に深くなる(30~40 cm)。このステップも固くなっていて、まるでコンクリート状態だ。リフト 4/8 で踏み跡が途絶え、固い雪の上に乗った浅い処女雪歩きとなる。
	9:35	〃	リフト 6/8、やや傾斜が緩んだ所でスノーシューを着ける。
最終リフト終点	9:45	〃	ここから少し下り林間を進み、登りになる。動物の足跡がパイロットだ。
H 6 7 4	10:00~10:15	〃	小ピークに上がる。この先は痩せ尾根となり、雪が割れている。山頂がその先に見える。しばらく逡巡し、右側の雪を乗越えながら進もうと、スノーシューを脱ぎストックをデポし、ピッケルに持ち変え歩き出したら、2 度も隠れていた雪の割れ目に腰まで沈んでしまった。これでブツン。たじろぐ気持ちに勝てなくなり、引返しを決意する。
下 山 開 始	10:40	〃	守門や三山の写真を撮り、もう一度スノーシューを履き、来たトレースに沿って戻る。最終リフト後はフリールートで下る。蹴り落とした雪が小さい玉となって軌跡を描きながら転がり落ちて行く。
2 本目リフト上	11:00	〃	雪が緩んで来る。降り場を回りこんで、今度は九十九折に付けられているスキー場管理道路上を歩く。1 本目リフト付近からはゲレンデを下る。
駐 車 地 点	11:25	〃	最後までスノーシューで下る。神湯ふれあいの里で入浴 (600 円)。姉から聞いていたが、いいお湯だった。帰路につく。
与 板 着	午後 1:00	〃	帰りも高速を使う。ザックの昼飯を自宅で食べる。

前々日の朝、与板でも 20cm 近い新雪が積もった。そしてこの日だけの移動性高気圧であった。日焼け止めのクリームを塗って入山した。条件としては申し分の無い気候だった。しかし、ある程度予想はしていたが、完全単独だったため、無理は出来なかった。今後の宿題にしようと思う。

出席したいと思っていた 2 時からの会合の案内が入っていた。山を優先し欠席を届け出た。頂上まで行ければ、当然その時間には間に合わないからだ。引返しを決めたとき、山の上からすぐに幹事役に電話を入れて出席した。